

水道事業部が目指す
新たな管路管理モデル東亜グラウト工業に新たに
発足した「管路グループ水道
事業部」。衛星による漏水検
知技術「アステラ・リカバー」と管路GISデータを活用し
たAI解析ソフト「アセット
アドバンス」を組み合わせ、
調査・診断から最適な管路更
新計画の立案までをトータルパッケージ
化するなど、
水道事業が抱
えるヒト・モ
ノ・カネの課
題に対する新

たなソリューションモデルを
提案している。本紙では、副
事業部長を務める梶原康治氏
に意気込みや今後の展開につ
いてお話しいただいた。

◇

― 初めに、水道事業部の立
ち上げに至った経緯について
お話しください。

梶原副事業部長 水道事
業部の前身となる「管路グ
ループアイスピゲ部」では、
看板技術の「アイスピゲ管内
洗浄工法」が第3回インフラ
メンテナンス大賞（厚生労働
省）優秀賞を受賞したこと

で、それまで主に下水道分野
だったものが、水道分野への
拡大に繋がりました。アイス
ピゲ工法が開発された本国の
イギリスを含め、海外ではイ
ンフラの点検や維持管理にA
Iを活用する動きが加速化し

ており、弊社では、これまで
も海外の先進的な技術を積極
的に取り入れた画期的なソ
リューションを提供してきま
した。

国内においては、ウォー
ターPPPの導入の動きが進
む中、特に中小の水道事業体
において、喫緊の課題となっ

アプローチが求められていま
す。

― 梶原副事業部長のご出身
の九州では、県全域でアステ
ラを導入している大分県や、
最近では久留米市での実証実

験も注目されていますね。
梶原 自己紹介をする前に
ご紹介をいただきましたが

久留米市のプロジェクトに
ついて簡単に紹介させてい
ただくと、管路GISデータ
の整備から衛星による漏水探
知、AIを活用した管路劣化
予測診断、管路更新計画の最
適化までをワンパッケージ化
するもので、世界初の試みと
なります。

観測データから漏水が疑われ
る箇所を抽出し、音聴調査の
対象範囲を約10分の1に絞り
込み、経験・実績が豊富な業
者が音聴調査をすることで、
これまでの全域を対象にした
漏水調査に比べ、費用や時間
を抑え効率的に漏水を検知す
ることが可能になります。

アセットアドバンスについ
ても、将来的には、後述する
オペティマイザーも含め、自
治体の職員がソフトを使いこ
なして活用する方法に加え、
海外のようにコンサルタント
会社と連携・支援を受けなが
ら、事業体が抱える課題に対
する計画を立案できる体制づ
くりが理想だと考えていま
す。

― 今後の事業展開について
もお話しいただけますか。
梶原 アステラとアセット
アドバンスを組み合わせた
パッケージについては、久留
米市をモデルケースとし、ア
イスピゲと同様に全国展開を

目指します。そのためには、
地域で力のある事業者を発掘
していくことも必要だと考え
ています。

新たな事業では、アセット
アドバンスを手掛けるオペ
ティマイクス社の管網解析
ソフト「オペティマイザー」
を用いた震災対策があり、4
月から横浜市で全国初となる
試行がスタートしています。

また、アメリカのミユラー
社およびオーストラリアのA
I A社が提供する音響評価技
術「eパルス」を活用した水
道管路の劣化予測について
は、現在、複数の事業体で取
得したデータをもとに実証検
証を進めている段階です。

当社は、「オンラインワン」
のソリューションで全国の水
道事業体の人手不足や財源不
足の課題解決に貢献し、暮ら
しを支える「まちのお医者さ
ん」を目指していきます。引
き続き、皆様のご支援、ご協
力をお願いいたします。

東亜グラウト工業管路グループ
水道事業部 副事業部長

梶原 康治氏

アステラ・リカバーを用い
た漏水検知では、広域の衛星